

# Public symposium on Takayasu disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19122">http://hdl.handle.net/2297/19122</a>

## 『学会開催報告』

## 高安病発見から1世紀 —記念公開講座— Public symposium on Takayasu disease

金沢大学医薬保健研究域医学系血液情報統御学  
和田隆志

平成21年6月19日 日本都市センターホテルにおいて、高安病発見から1世紀—記念公開講座—が開催された。高安右人先生の発見以来、本疾患が100年を経過したことを記念し、記念公開講座実行委員会の主催、金沢大学医学部十全医学会ならびに厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究班の後援にて企画・開催されたものである。後援にあたり、山本博先生、杉山和久先生にご助言を頂いた。この公開講座は、高安病発見の経緯に加えて、急速に進歩する診療の最先端情報を提供し、疾患の理解を深めることで病に苦しむ方々、関係者の皆様のお役にたつことを願って開かれた。これに先立ち、難治性血管炎に関する調査研究班が当日開催され、その病態解明とともに克服にむけた治療に関する最先端の研究結果が報告された。

公開講座開催にあたり、研究班の研究代表者の岡山大学 横野博史先生より挨拶があった。このなかで、北陸地方を含め全国から100名をこえる方が来場されていることが紹介された。横野博史先生は昨年の十全医学会学術集会において、糖尿病性腎症に関する最新の成果をお話になっている。この際、撮影された高安右人先生の像を示されながら高安先生の紹介をされた。高安先生の偉大な業績に改めて敬服するとともに、医師として、日本人として、金沢大学として誇りを抱かせるものであった。続いて、群馬大学名誉教授の清水弘一先生が「高安病：その本態」と題して講演された。どんな病気？、発見のいきさつ、どう疾患が変化した？、なぜ眼科医が関係する？、高安病は治る？治らない？の順に、わかりやすくかつ説得力のある講演をされた。さらに「診断と治療の現状」と題して、循環器内科の立場から東京医科歯科大学 磯部光章先生、放射線科の立場から国立循環器病センター 内藤博昭先生、血管外科の立場から東京大学 宮田哲郎先生が最新の情報をわかりやすく講演された。いずれも、診断ならびに治療の進歩を強く印象付けるものであった。実際の子後の改善も示され、今後の展開に期待を抱かせる講演であった。また、各講演とも難病克服にむけた熱意が伝わる感銘深いものであった。最後に、横野博史先生、司会を務められた尾崎承一先生、重松宏先生、演者ならびに患者代表によりパネルディスカッションが行われた。

各講演ならびにパネルディスカッションでは会場の参加者を交えて熱心に質問が行われ、瞬く間に時間が過ぎていった。参加者も多く、内容も充実した記念公開講座であった。

